

製品名: PDK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15917**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 60kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | PDPK1 |
| 別名 | PDPK1; PDK1; 3-phosphoinositide-dependent protein kinase 1; hPDK1 |
| 遺伝子 ID | 5170.0 |
| SwissProt ID | O15530 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト PDK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 210-259 |

背景

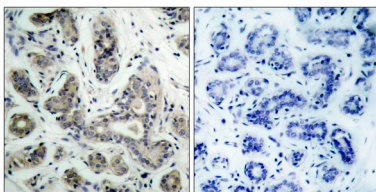
触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能:PKB/AKT だけでなく、PKA、PKC- ζ 、RPS6KA1、RPS6KB1 もリン酸化して活性化します。シグナル伝達プロセスおよび発達において一般的な役割を果たす可能性があります（類似性による）。アイ

ソフォーム3は触媒的に不活性です。、PTM:チロシンおよびセリン/スレオニンがリン酸化されています。活性化ループのSer-241のリン酸化は、完全な活性化に必要です。PDK1自体はSer-241を自己リン酸化して、自身を活性化することができます。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PDK1サブファミリー。、類似性:PHドメインを1つ含む。、類似性:タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。、細胞内局在:細胞刺激後に膜に会合し、転座を引き起こす。チロシンリン酸化は細胞膜でのみ起こると思われる。、サブユニット:TUSC4と相互作用する。、組織特異性:遍在的に発現していると思われる。、触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、機能:PKB/AKTだけでなく、PKA、PKC- ζ 、RPS6KA1、およびRPS6KB1もリン酸化して活性化する。シグナル伝達プロセスおよび発生において一般的な役割を果たす可能性がある(類似性による)。アイソフォーム3は触媒的に不活性である。、PTM:チロシンおよびセリン/スレオニンがリン酸化される。PDK1自体はSer-241を自己リン酸化することができ、それによりPDK1自身も活性化される。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PDK1サブファミリー。、類似性:1つのPHドメインを含む。、類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在:細胞刺激後に膜に会合し、転座する。チロシンリン酸化は細胞膜でのみ起こると考えられる。、サブユニット:TUSC4と相互作用する。、組織特異性:普遍的に発現していると思われる。、

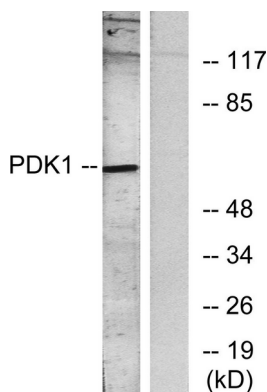
研究分野

PPAR、mTOR、接着斑、インスリン受容体、アルドステロン調節性ナトリウム再吸収、子宮内膜がん、前立腺がん、非小細胞肺癌。

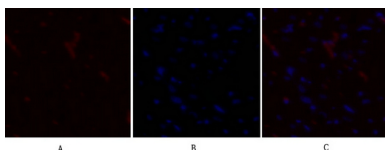
画像データ



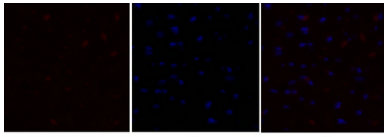
PDK1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



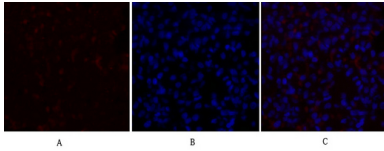
EGF処理したMDA-MB-435細胞のライセートをPDK1抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



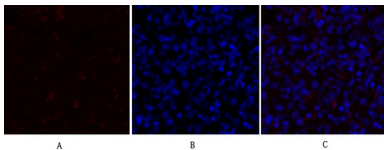
ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, PDK1ポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晩)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



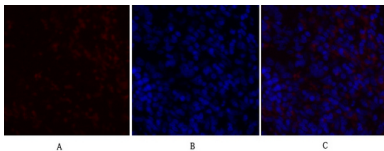
ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, PDK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



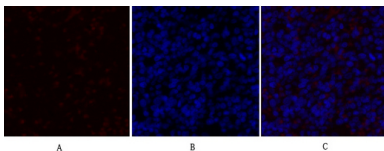
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PDK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



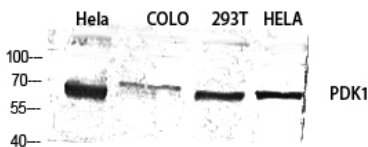
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PDK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PDK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PDK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



PDK1 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。